別添

生物多様性保全に向けて
～企業・団体の事例集～

滋賀県　自然環境保全課

活動場所	滋賀事業所：蒲生郡日野町
活動の位置付け	生物多様性保全

1. 結いプロジェクト -株式会社ダイフク-

「水と緑」「自然と人」「人と人」をつなぐ3つの“結い”を目指す

活動の背景

琵琶湖博物館の学芸員の方から、事業所内に豊かな自然環境が整っているとのご助言をいただいたことがきっかけでした。その後、本格的な調査を行ったところ、ヤマトサンショウウオなど希少な生物が確認されたことで、保全活動へ繋がりました。これまでに1,000種以上の在来種を確認し、そのうち絶滅危惧種や希少種は70種以上となっています。

ヤマトサンショウウオ

結いプロジェクト

事業所内の緑地を活用し、「保全」「楽しみ」「交流」「発信」をモットーに活動を展開しています。絶滅危惧種・希少種の保護活動、池や湿地・樹林の環境改善、従業員または社外との交流などの活動を行っています。

ヤマトサンショウウオの保全

保全のシンボルであるヤマトサンショウウオの繁殖や保全池の整備、生息状況の確認などを行っています。

保全池

ちょこっと自慢 活動のここが良かった

◆ 従業員が考えるきっかけに

自然観察会では、従業員から「事業所内にこんなにたくさんの生き物がいることを初めて知った」との声があり、楽しみだけでなく、環境意識の向上にもつながっています。

観察会の様子

◆ 社外との交流・学び

生物多様性活動を通じて繋がった企業・団体と意見交換・事業所内見学を行い、保全活動に関する新たな発見や学びを得ることができ、社外との連携も深まっています。

社外との意見交換会

◆ 結いの森

しゃくなげ池のほとりに沿った散策路をベースにアカマツ保全林、触れ合い湿地、保全池を整備しているエリアです。森林や希少種の保全、自然との触れ合い、自然環境学習、社内外の交流の場として活用しています。また、事業所内は、除草剤などの化学薬品を使用しない手作業による草刈りによって緑地管理を行っています。

◆ ハッチョウトンボの生息地の確保

県内で減少傾向にあるハッチョウトンボの保全に取り組んでいます。2023年度には、山の湧き水やススキやスゲなどを活用した新たな湿地を造成し、既存の生息地から植物や表土とともに、ハッチョウトンボの卵・幼虫・成虫を移動しました。定着するようモニタリングを継続していきます。

しゃくなげの池

植生浮島を設置し、トンボや水鳥などを呼び込めるように整備を行っています。

活動場所	滋賀工場：蒲生郡竜王町 物流センター：東近江市
活動の位置付け	生物多様性保全

2. 生きものを守る活動 -積水樹脂-

活動の背景

滋賀工場には、希少なトンボが生息する環境があり、2013年から専門家からのアドバイスを受けて活動を開始しました。また、物流センター設立時に、地元住民から希少植物の移植について要望があったことをきっかけに湿地の保全を開始しました。

イシモチソウ

積水樹脂の生きものを守る活動

生 物調査

毎年季節ごとに、工場の敷地内に生育・生息する生物を調査しています。調査では37種類の絶滅危惧種が確認されています。

ヤマトサンショウウオの保全

い きもの観察会

定員20人程の地域住民参加型観察会を毎年実施しています。地域住民からは、次回の観察会実施予定について聞かれるほど人気のあるイベントになっています。

サ ンショウウオ等の希少な生物の保全

工場で製造しているフェンスなどを活用し、希少な動植物をアライグマやイノシシ等による食害から保護しています。

湿 地環境の保全

生物多様性保全エリアにある湿地環境を維持するために、生態系に配慮した除草等を継続的に実施しています。

地域との連携

トンボ100大作戦-生物多様性びわ湖ネットワーク-

生物多様性びわ湖ネットワーク(BBN)に参加し、トンボをテーマに滋賀県の生物多様性保全に取り組んでいます。

積水樹脂の推しのトンボは“ハッチョウトンボ”です。

ハッチョウトンボとサギソウ

活動を行う上での課題

- 環境保全活動に参加する従業員が限られている。
- 森林整備の一環で、生物多様性保全エリアの周辺で伐採等が行われると湿地環境が変化する可能性がある。

ちょこっと自慢 活動のここが良かった

◆ 周りからのお声かけ

生きもの観察会の参加者から「次の観察会はいつ？」とお声かけ頂けるほどの人気イベントに！

◆ 新たな繋がり・学び

観察会は地元の図書館と共同開催
社外の団体とも保全活動を通じて連携できるように！

活動場所	草津工場：草津市野路東
活動の位置付け	生物多様性保全

3. 共存の森 -パナソニック株式会社-

「普通種と呼ばれる生きものが、普通に生息できる環境を目指す」

活動の背景

2008年に「地球環境との共存」「地域社会への貢献」「エコ活動の実践」を軸とした“環境宣言～エコアイディア工場　びわ湖”を発信し各種の環境取り組みを推進しました。これらを更に進化させ、2011年に“エコアイディア宣言”を発信し、この中で「生物多様性の保全」として、地域の生態系に貢献する事業場緑地の創出を軸とした、「パナソニック・エコロジカルネットワーク構想」を発表し具体的な取り組みを開始しました。

共存の森

工 コロジカルネットワークを目指した活動

「共存の森」では、周辺地域の動植物調査をおこない、生物の生息状況、草津周辺の生物の利用実態を把握したうえで、生息環境として良好な条件を持つ緑地を共存の森として保全すると共に、拠点敷地則面の緑地や並木を回廊として拠点周辺の緑地をつなぐ取組みをおこなっています。周辺環境に併せ、コナラ林を目指すべき植生として、活動に取り組んでいます。また、共存の森は地域の人とのコミュニケーションの場としても位置付けています。

環 境学習

地域の小学生を対象に、環境学習プログラムを実施しています。コロナ禍以降は「共存の森」からの中継を交えたオンライン授業を実施しています。環境学習には、これまでにのべ6,000人程度の小学生が参加しています。

地域との連携

産学共同研究のフィールドとしての活動

産学共同研究のフィールドとして、2023年10月から大学と連携して研究を行っています。基礎的な技術研究の場として活用されており、本業にも生かされています。

活動の考え方！

ちょこっとポイント

普通種と呼ばれる生きものが、普通に生息できる環境を目指す

<u>土地を使わせていただいている</u>という立場から、生きものの保護ではなく、その土地（共存の森）の環境の整備を主に実施することとしています。

◆ **少しでも自分たちで！**

広大な土地がなくてもやれることがある！知識が少しあるだけでもできることはある！と考え、普及啓発に積極的に取り組んでいます。

担当者さん

活動を行う上での課題

- 緑地管理を行う作業者の負担の大きさ
- 環境への取り組みの企業としてのゴールの設定
- 周辺エリアでエコロジカル・ネットワークを形成する関係主体とつながり活動を展開するためのプラットフォームが大切

活動場所	油日：甲賀市甲賀町
活動の位置付け	生物多様性保全

4. 滋賀の植物を守る植物園

–塩野義製薬株式会社　油日植物園–

活動の背景

1947年に、医薬品の基原となる植物の栽培や天然物からの創薬シードの探索を目的に開園しました。

その後、管理者が退職したことなどで一時放置されていた植物園を、植物種の保全等の生物多様性や次世代への教育支援などの地域貢献を目的に2012年に、環境問題への取り組みや地域・社会貢献を行う施設としてリニューアルしました。

活動内容

◆絶滅危惧種・希少種の保全

油日植物園は4haの敷地におよそ1,000種類の植物が生育していて、環境省レッドリストに記載されている植物は約70種にも及びます。中でも滋賀県や甲賀市に所縁の深い「ガガブタ」、「ユキワリイチゲ」、「ムシャリンドウ」、「サギスゲ」の保全に力を入れています。

ガガブタ

ユキワリイチゲ

京都・滋賀の植物園の情報交換会において、他機関と活動や取り組みの情報交換を行っています。

◆次世代への環境教育

一般公開はしていませんが、学校教育との連携は行っています。教育機関へは主に場所の提供として、油日植物園を利用して頂いています。

活動を継続していくために

ちょこっと共有

楽しんで学んでほしいという思いでスタッフが様々な企画を実施しています！！

課題

- 油日植物園の将来のあり方
- 油日植物園を自然共生サイトとして保全していくか
- 地域からの油日植物園に対しての要望の整理などについて、社会や地域環境の視点や他の植物園などとの意見交換なども交えながら検討段階である。